

■白河の小天狗 (前後篇拾巻)

帝キキ声屋時代映畫

紹介 第二百十五號

サンデー毎日に掲載された井手鑑爾氏の原作は、ほんの發端の少年時代だけで、後は相變らすの亂闘向に出來上つて居る千變一律の俠爭亂闘劇である。小國「沙志兵の脚色は今度は亂闘原作さなだけ「血刃」より脚色技巧も苦心して居るが何にせよ扱ふものだけ大した新し味も出せず、お定りの民取りを上手に仕組んだと云ふ外はない。唐澤弘光氏の監督は百々之助の亂闘劇の骨をよく知つて居る人だけ何等破綻なく從來通りの所謂百々之助の亂闘劇を立派に作り上げて居る點、監督としての價値を認める事が充分出る。カットは相變らす烈しいが「血刃」程の亂賑さがないのは何りである。市川百々之助氏の鐵五郎は少年時代の扮装が珍らしく黒塗りでそれらしく好かつた。俠客となつてからは例に依つて何の如しである。殺陣の型は一寸面白いのがあつた。

片岡童十郎氏の白河の清五郎は戸屋へ移つてからの最初の出演だがやつほり大きい所がある。その他東長之助氏の敵役、山下澄子嬢の情緒などなくてはならぬ役どころだが殊に評するにはあたるまい。

山本 綠葉

興行價値——市川百々之助の帝キキ引退間際に完成した映畫で危く帝キキ最後の作品になる筈だつたが百々之助復活でその銘も打たなつた。

十二月卅日前篇 壹月五日後篇 大阪青邊劇場